

先月号にひき続いて、図書を紹介していただきました。中村弓子先生は毎年、素敵な一冊を教えてくださいます。きつと先生は、本棚に宝物をたくさんお持ちなのでしょう。国越健司先生は、音楽科で教えていらっしゃるかわら、東京大学で数学を学ぶ学生でもいらっしやいます。「おもしろい数学の本をご紹介します。」とお願ひしたら、楽しい本をたくさん教えてくださいました。

保育の日々、心豊かに、毎日を過ごしたいものです。

近くの幼稚園の子ども達が先生と集団で帰ってくる。「○○ちゃん、ごあいさつ」と先生の声。「せんせい、さようなら、みなさんさようなら」先生「ごいっしょに」全員「さようなら」ここまでは一本調子。その後、先生「○○ちゃん、サヨナラ」子ども「バイバイ」他の子どもも口ぐちに「バイバイ」

私はいつもこのやりとりを家にいて聞

いているのだが、どう考えても前半の題目を唱えるような挨拶(?)は必要ないと思ってしまう。この園では六月くらいから十月の運動会の練習がはじまるときく。スピーカーの音が我家にまで聞こえてくる。園児たちの毎日の生活を思う時、「ああ、せつかくの幼児期を……」と暗い気持ちになる。そんな話がある会で話すと、「でも、実際は、幼稚園の九割近くがそれに近い保育内容の園ですよ。」とのこと。ここで又、愕然。

昭和六十一年九月に出された「幼稚園教育の在り方」、六十二年十二月に発表された教育課程審議会の答申を、いかに読み、いかにそれぞれの園に照らし、いかに変わろうとする姿勢を持つか……? ひとつとではない。自分も、もう一度、前述の文章にとり組んでみよう。そして、どの園でも、今、いかに変わろうかという努力がなされていると信じたい。二十一世紀に生きる子ども達のために。

(Y)

幼児の教育 第八十七巻 第九号

九月号 ©

定価 四〇〇円

昭和六十三年 八月二十五日 印刷

昭和六十三年 九月 一日 発行

東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 本 田 和 子
発行人

東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都港区三田五ノ一二ノ一

印刷所 図書印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京九一一九六四〇番

TEL・二九二二七七八一(代)

◎本誌御購読についての御注文は発売所 フレーベル館にお願いいたします

※万一製造不良の点がございましたら、おとりかえいたします。